

令和 5 年度 大阪府立成美高等学校 第 3 回学校運営協議会議事録

令和 6 年 1 月 30 日

開催条件の確認

<司会進行>

本日で出席を賜りました委員のみなさまは委員定数の過半数を超えていますので、「学校運営協議会の運営に関する要綱」第 14 条 2 項および、「学校運営協議会実施要項」第 10 条 2 項の規定を満たしております。よって協議会は成立することを認めます。なお、事務局員の指導教諭・進路指導主事および生徒指導主事は公務出張のため欠席させていただきます。ご了承ください。

校長挨拶

- ◆ 3 年連続で募集人員の定員割れとなっていることから本校は岐路に立っている。
- ◆ 幅広い観点から忌憚のないご意見を頂きたい。

本校の現状報告

<堂之本会長>

それでは協議を始めたいと思います。まず「令和 5 年度学校評価」について説明をお願いします。

<校長>

それでは説明いたします。別紙 1 をご覧ください。

- ◆ 「めざす学校像」および「中期的目標」の確認
- ◆ 学校教育自己診断の結果と分析について
 - ◇ 37 項目中 21 項目について昨年度より評価が上昇しているため今年度の取組みが良かったと考える。
- ◆ 本年度の取組み内容および自己評価について
 - ◇ 「ビデオ・スライドなどの視聴覚機器やコンピューター・プロジェクターを使った授業がある」の肯定率について目標の 90%には達していないが、昨年度 87%から今年度 89%に上昇している。一方、「コンピューター等の ICT 機器を授業などで活用している」という教員向けの項目の肯定率について昨年度は 95%で今年度は 97%となり、高い水準を維持している。
 - ◇ 就職試験 1 次内定率の目標が 70%のところ、昨年度 82.5%から今年度 93.3%に上昇しているので、今年度は特に頑張ったといえる。
 - ◇ 「人権教育」に対する保護者向けの項目について肯定率の目標を 80%以上と設定したが、昨年度 86%から今年度 79%と下降している。今後は生徒のみならず保護者に対しても積極的に伝えることに努める。
 - ◇ 「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして主体的な生き方につながる学習となるように工夫している」という教職員向けの項目の肯定率について昨年度は 93%で今年度は 97%となり、教職員にはしっかり意識

が根付いていると考えられる。

- ◇「教育相談」に対する生徒向けの項目において昨年度 78%で今年度 74%となり、高い数値を維持している。今後も相談窓口の周知と相談しやすい環境づくりを全教職員でめざし相談体制の充実に力を入れていきたい。
- ◇「学校行事・部活動・生徒会活動」に関する生徒の満足度について昨年度 76%で今年度 82%となり、生徒が行事に前向きに取り組めたことを表している。
- ◇「情報発信」に対する保護者向けの項目において肯定度の目標を 74%に設定したが、昨年度 71%で今年度 65.5%となかなか伝わっていない。
- ◇時間外勤務が月 80 時間以上であった教職員が昨年度と比べると 7 人から 8 人に増えている。また本来であれば時間外勤務を月 30 時間以内にしなければならないところ、本校の教職員の平均が約 29 時間であることも踏まえてあまり良い結果とはいえない。これは学校行事がコロナ前の状態に戻ってきていることで業務が増えていることも関係していると考えられる。

<堂之本会長>

ただいまの説明についてご意見・ご質問がありましたら発言をお願いします。

大きな問題はなく概ね計画通りではないかと思う。週に定時退庁日を設定しているか？

<校長>

水曜日に設定しているが部活動や生徒指導等であまり実現していない。

<渡邊委員>

1 度中止した学校行事をもう一度立ち上げると業務は 2 倍 3 倍になる。そこでやめてしまえば楽になるが、楽な方に流されず生徒が学校生活を楽しめるようによくできている。対してそうすると労働時間が長くなってしまふ。ただ、その業務と労働時間のバランスもうまくとれているのではないか。

<鶴山副会長>

保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度が 65.5%と低くなっているが、具体的な改善策はあるか。

<校長>

具体的とは言えないかもしれないが、ホームページで情報発信しているなどを保護者にメールでわかりやすくかつこまめにやり取りをしたい。

<藤原委員>

今年度よりメールのやり取りがマチコミに変わったが、その登録ができていない保護者が多くいるのが情報発信の肯定度が下がった原因ではないか。

<校長>

登録の周知をもっとしっかりすればよかった。

<事務局長>

1 度登録すれば 3 年間ずっと使い続けることは可能だが、管理の都合上毎年登録しなおしている。登録方法は毎回担任から生徒に案内を配り説明しているが、生徒から保護者に伝達しないことが考えられる。

<藤原委員>

入学式で保護者に向けて説明してはどうか。

<事務局長>

合格者説明会で保護者対象に説明することはあり得る。

<堂之本会長>

他に何かありませんか。

<田中委員>

普段から生徒の皆さんには地域の行事で頑張ってくれてとてもありがたい。今後も引き続きお願いしたい。また能登半島地震もあったが、地域も絡めて防災についての取り組みをお願いしたい。

令和6年度 学校経営に関する基本方針(案)について

<堂之本会長>

では次に「令和6年度学校経営に関する基本方針(案)」について説明をお願いします

<校長>

それでは説明いたします。別紙2をご覧ください。

- ◆「めざす学校像」については最も大切にしているところなのでぶれずにそのままを進める。
- ◆「中期的目標」については、高い水準のものは維持していき改善しなければならないものは改善していく。
 - ◇生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和8年度までには75%にするという3年間をかけた目標を設定した。
- ◆本年度の取組み内容および自己評価について
 - ◇令和5年度の遅刻・懲戒回数が確定していないため具体的な数字が明記できないが、前年度以下にするという目標を設定した。
 - ◇部活動への参加を促進するため体験入部を実施するとあり今年度も年2回に増やしたが参加率が悪かった。
- ◆3年連続募集人員の定員が割れていることで本校は学校再編の対象となっている。また今年度について2・3年は5クラス規模であるが体育祭の応援団などの関係により6クラスで運営してきた。しかし来年度は全15クラスの予定であり、教職員の人数が減るため分掌の再編等で学校の体制を整えているところである。生徒については、個別の支援を充実するために入学時に情報を集約して生徒指導に生かし、教育相談体制の充実に関心をもちたい。
- ◆働き方改革については職員会議等で会議資料の配信でペーパーレス化を行い教職員の負担軽減を図りたい。

<堂之本会長>

ただいまの説明についてご意見・ご質問がありましたら発言をお願いします。

<渡邊委員>

最近、子どものコミュニケーション能力が低くなっていると感じる。コミュニケーション能力を付けるための取り組みはないだろうか。

<堂之本会長>

ここ数年で部活動に入らない・入りたくない生徒が増えているが、その原因のひとつが「先輩や気の合わない同級生との関係が煩わしい」という話を聞いた。明らかに生徒の気質が変わってきている。その中で学校に求められるのは、時間がかかるが「生徒の納得感ある指導」である。

<鶴山副会長>

中学校で面接練習をした際に将来の夢を聞くと「YouTuber」と答える生徒が増えてきた。そのとき生徒から「他人の感覚がわかるようにしなければならぬ」という発言も聞く。そのため高校で「YouTuber 養成講座」とまでは言わないが、人との関係の大切さを学べる講座はないだろうか。また「YouTuber 養成講座」くらい中学生が興味を示すような講座があれば募集人員の定員割れに効果が出るのではないか。

<校長>

本校は総合学科なので様々な授業を展開している。例えば情報系の授業で「YouTuberとして発信するとしたらどうするか」といった授業なら実現可能ではないか。

<堂之本会長>

私は長く ICT を使っていたが、ICT では理解が進まない生徒が増えたため ICT を活用した授業をやめた。代わりに学生が板書を書き取る授業にしてグループ活動を取り入れた。グループ活動を行うとコミュニケーション能力が高まるのではないか。また、板書を書き取ることで生徒の満足度も上がるのではないか。

他にご質問・ご意見等はありませんか。

それでは本議会として「令和 6 年度学校経営に関する基本的な方針（案）」を承認します。ただし、主旨は変えずに文言等に問題があれば学校に連絡をして変更していただくという条件付きでの承認とします。

令和 5 年度 学校教育自己診断の分析について

<堂之本会長>

では次に「令和 5 年度学校教育自己診断の分析」について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは説明いたします。別紙 3-1 から 3-3 をご覧ください。

- ◆全体的に肯定率はあがっている。
- ◆「この学校にはほかの学校にない特色がある」が上がっている要因として、海外にルーツのある生徒が 1 年生に多く、例年 1・2 組に在籍させるところを 1～4 組までとしたことで多文化・多言語に触れる機会が増えたことが考えられる。
- ◆「選択科目は多様なものがあり自分の学びたいことを学べる」が上がっている要因として、教務部が行った選択科目の調整が関わっていると考えられる。
- ◆「授業で自分の考えをまとめることやパソコンなどを使用して発表する機会がある」が上がっている要因として、アンケートはすべて 1 人 1 台端末で行っておりコアカリキュラムでも使うことが多いことが考えられる。
- ◆「学習の評価の方法や基準について納得できる。」については、次年度より全学年が観点別評価に変わるので今後の推移を長いスパンで注視したい。
- ◆今後について、家庭とのコミュニケーションが不十分に感じるので家庭との連絡に ICT を活用していきたい。生徒指導については問題行動の未然防止に力を入れていきたい。部活動については今も頑張っている生徒はいるので、部活動の参加人数を増やしていきたい。人権学習については、本校には海外にルーツのある生徒や車椅子を利用している生徒が実際に在籍しているので、これまで同様に力を入れて維持していきたい。

<事務局>

ただ今の事務局の説明についてご意見・ご質問がありましたら発言をお願いします。

アンケートの結果からホームページを見ている保護者が少ないので、もっとホームページの必要性を上げたり先程の話にもあった合格者説明会でアナウンスするなどの案が考えられる。

各学年および進路指導部からの報告について

<堂之本会長>

では次に「各学年および進路指導部からの報告」について事務局からお願いします。

<学年主任(3年)>

コロナの影響で行事ができなかったができるようになったこともあり、2年の終わり頃から体育祭で応援団をやりたいとの声が生徒から上がった。応援団をする上で最上級生として下級生がついていきたくなるような行動を見せるようにこの働きかけを行い、生徒から反発もあったが生徒から生徒へ働きかけを行う姿も見られ、最後には体育祭を成功させることができた。またLHRの時間を使ってクラスマッチをしたいという声が生徒からあがり、生徒主体でLHRの時間を2つ使ってクラスマッチを行った。ただし、ほとんどの生徒がすでに進路が決まっていることもあり、最後の定期考査を惰性で受ける生徒が見受けられる。

<学年主任(2年)>

この学年はコロナの影響もあり海外にルーツのある生徒の数が少ない。ルーツ生の中から転学した生徒やN1を取得して抽出授業から原学級に戻った生徒もおり、次年度はルーツ生の在籍するクラスが1つになるかもしれない。今年度は修学旅行があったが行き先や民泊があることにより不安を感じる生徒が多く、直前の懇談でも直接声をかけたが参加率は悪かった。ただし修学旅行に参加した生徒からは満足感が高く、参加しなかった生徒との成長の差を実感した。全体として若い生徒が多く教員にかまってもらいたい生徒が多い。その中で次年度は本人の自己主張や自己表現をする力の育成に尽力したい。

<学年主任(1年)>

ルーツ生が多いため年度初めから緊張感をもって臨み生徒指導についても厳しくしてきた。そのことに大半の生徒は慣れてきたが最近少し緩んできているので今後はまた正していきたい。また次年度の目標としてクラスのまとまりを意識した指導をしていきたい。

<事務局長>

続いて進路指導部からの報告ですが、本日は進路指主事が公務出張のため私が代わりに説明します。

◆進路指導全般

進路に係る試験結果待ち・進路の方向性のみの決定・卒業が目標といった理由で、進路の決定していない生徒が各クラス5名程度・計30名ほどいる状況…進路決定にむけて今後も担任とともに粘り強く指導していく。

◆就職関係

学校斡旋による就職は最終35名。一次内定率は93.3%で昨年度より10ポイント上昇したが、要因として近年の求人数の増加や生徒が事業所の規模よりも職務内容に重きをおいて受験先を選択したことが挙げられる。また、昨年度の卒業生の離職率は4.8%で全国平均の17.8%を大きく下回っていることから、本校の進路指導は生徒にとってプラスになっていると考える。なお、学校斡旋に依らず卒業後にハローワークや縁故を頼って就職しようと考えている生徒に対する新しい試みとして、今年度はハローワーク主催のガイダンス・相談会に引率した。卒業後の就職支援につながればと考えている。

◆進学関係

現在のところ大学 36 名・短大 12 名・専門学校 70 名が合格。大学および短大は学校推薦型選抜いわゆる指定校推薦、専門学校は総合型選抜いわゆる AO 入試による合格。また、近年の傾向として看護系専門学校が合格しやすくなっているが、高校での出席率が低い生徒は苦戦している。

<堂之本会長>

ただ今の事務局の説明についてご意見・ご質問がありましたら発言をお願いします。

<渡邊委員>

ルーツ生の就職はどのようになっているのか。やはり厳しいのか。

<事務局長>

在日期間や資格の問題もあり就職は厳しい。職業訓練校などに進むこともあるが進学を勧めることが多い。

保健委員会からの報告

<堂之本会長>

では次に「保健委員会からの報告」について事務局からお願いします。

<事務局長>

それでは簡潔に報告いたします。

1/19(金)に 公益社団法人 日本歯科医師会 専務理事 の瀬古口さまを講師にお招きして、教員・学校三師・生徒保健委員・PTA 役員で構成される学校保健委員会を開催した。別紙 4 をご覧ください。

委員会では、瀬古口さまから「歯の健康管理について」と題してご講演いただき、口腔健康管理と歯科検診の重要性を学んだ。後日その内容を生徒保健委員が「学校保健委員会だより」としてまとめ、全校生徒に周知した。報告は以上です。

<堂之本会長>

ただ今の事務局の説明についてご意見・ご質問がありましたら発言をお願いします。

第 3 回のまとめ

<堂之本会長>

いただいている議題については以上ですが、他に協議しておきたいテーマをお持ちの方はいらっしゃいますか？

ないようですのでこれにて協議を終了いたします。校長をはじめ教職員のみなさまには、しっかりと生徒を教え育て社会へはばたかせることを目的とした学校運営に努めていただきますようお願いして、進行を事務局にお返しいたします。

<司会進行>

委員のみなさまありがとうございました。全体を通して何かご意見等がありましたらお願いいたします。

校長お礼

<司会進行>

では最後に校長から協議会に対するお礼を述べさせていただきます。

<校長>

長い時間本当に示唆に富んだご意見ありがとうございました。本日のご意見を次年度の学校運営に生かしていきたいと思えます。

<司会進行>

以上をもちまして 令和 5 年度 第 3 回 学校運営協議会 を終了いたします。ありがとうございました。